



「ゼロカーボンシティうみ」宣言

近年、地球温暖化による気候変動は、猛暑や集中豪雨等を招き、私たちの生活に深刻な影響を及ぼしています。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命以前と比較して世界の平均気温上昇幅を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されました。その後、2018年に公表されたIPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)の特別報告書では「気温上昇幅を2度より低い1.5度に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」であると示されました。この実現に向けて世界が取組を進めており、2020年10月、日本政府も2050年までに、温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すこと」を宣言しました。

宇美町は、面積の約6割を森林が占めており、私たちは、県立自然公園内にある四王寺県民の森や一本松公園、宇美町の象徴ともいえる宇美八幡宮の樹齢約2,000年の国指定天然記念物の樟の巨木など、豊かな自然の恵みを受けながら生活してきました。

そのような中で、宇美町は、2020年10月に町制施行100周年を迎え、次の100年に向けてすでに歩み始めており、特に地球環境に配慮した持続可能なまちづくりに取り組み、自然豊かな環境を次の世代に引き継いでいくために、町民や地域、事業者の皆様と一体となって、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティうみ」を宣言します。

令和 4年 6月 3日

宇美町長 安川茂伸